

令和元年10月29日

平成30年度「国語に関する世論調査」の結果について

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しています。この度、平成30年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：平成31年2月～3月

調査方法：個別面接調査

回収結果：調査対象総数 3,590人
有効回収数（率） 1,960人（54.6%）

2 調査項目

- ① 国語や言葉への関心
- ② 表記等1 —用語など—
- ③ 表記等2 —文体・構成—
- ④ 読書について
- ⑤ 六つの表現の認知と使用、慣用句等の意味・言い方 など

3 添付資料

- 平成30年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

<本件担当> 文化庁国語課
国語課長 高橋 憲一郎（内線2837）
国語調査官 武田 康宏（内線2841）
専門職 小沢 貴雄（内線2842）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-2840（直通）

平成 30 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的 文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象 全国 16 歳以上の男女

調査時期 2019 年 2月～3月

調査方法 一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

調査結果 調査対象総数 3,590 人
有効回答数(率) 1,960 人 (54.6%)



備考・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

目 次

I 国語や言葉への関心

- ◆ 国語について、どの程度関心があるか……………〈問1〉……2
- ◆ 国語に関して国に期待することは何か……………〈問2〉……2

II 表記等1 一用語など一

- ◆ 言葉の書き方(表記)としてどちらが良いと思うか……………〈問3〉……3
- ◆ 言葉の使い方(用語)としてどちらが良いと思うか……………〈問4〉……4
- ◆ 常用漢字表というものがあることを知っているか……………〈問5〉……4
- ◆ 漢字の表記について、どう感じるか……………〈問6〉……5

III 表記等2 一文体・構成一

- ◆ 官公庁などが示す「お知らせ」や広報等の文書を読む場合、どのようなことを望むか……………〈問7〉……6
- ◆ 官公庁などが示す文書を読む場合、「です・ます」体と「だ・である」体と、どちらが良いか……………〈問8〉……6
- ◆ 言葉の使い方(文体、書き方)としてどちらが良いと思うか……………〈問9〉……7

IV 読書について

- ◆ 1 か月に大体何冊くらい本を読むか……………〈問10〉……8
- ◆ 人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか……………〈問11〉……8
- ◆ 読書量は、以前に比べて減っているか、それとも、増えているか……………〈問12〉……8
- ◆ 読書をする事の良いところは何だと思うか……………〈問13〉……9
- ◆ 自分の読書量を増やしたいと思うか……………〈問14〉……9
- ◆ ふだん、電子書籍を利用しているか……………〈問15〉……10

V 六つの表現の認知と使用, 慣用句等の意味・言い方

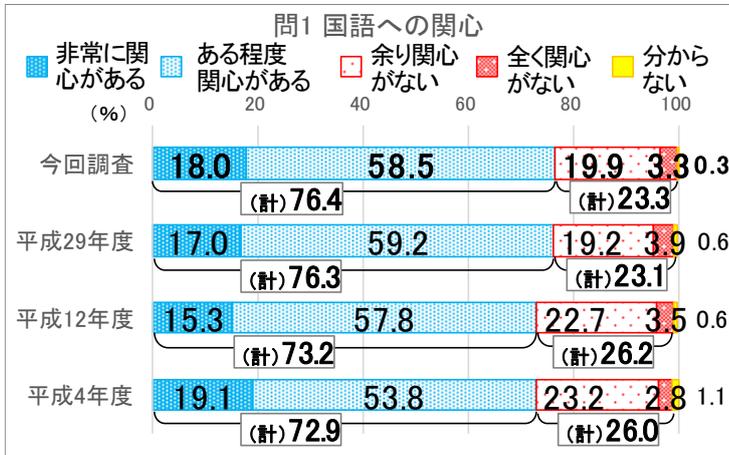
- ◆ 聞いたこと, 使ったことがある表現か……………〈問16〉……11
- ◆ どちらの意味だと思うか……………〈問17〉……12
- ◆ どちらの言い方を使うか……………〈問18〉……13

I 国語や言葉への関心

* 報告書のページを表す。

国語について、どの程度関心があるか<問1>(P.3*)

—「関心がある(計)」と、7割台半ばが回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

日常の言葉遣いや話し方、あるいは文章の書き方など、国語について、どの程度関心があるかを尋ねた。

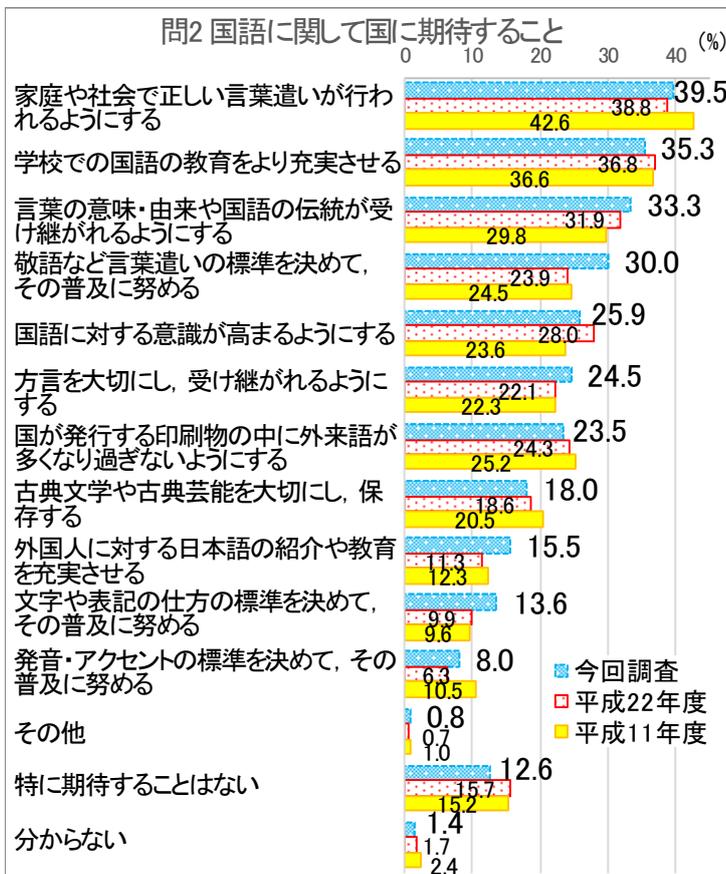
「非常に関心がある」(18.0%)と「ある程度関心がある」(58.5%)を合わせた「関心がある(計)」は76.4%となっている。一方、「全く関心がない」(3.3%)と「余り関心がない」(19.9%)を合わせた「関心がない(計)」は23.3%となっている。

過去の調査結果(平成4, 12, 29年度)と比較すると、平成12年度調査から平成29年度調査に掛けて「関心がある(計)」は

3ポイント増加、「関心がない(計)」は3ポイント減少している。

国語に関して国に期待することは何か<問2>(P.8*)

—「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする」が約4割と最も高い—



〔全体・過去の調査との比較〕

国語に関して、国に期待することを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

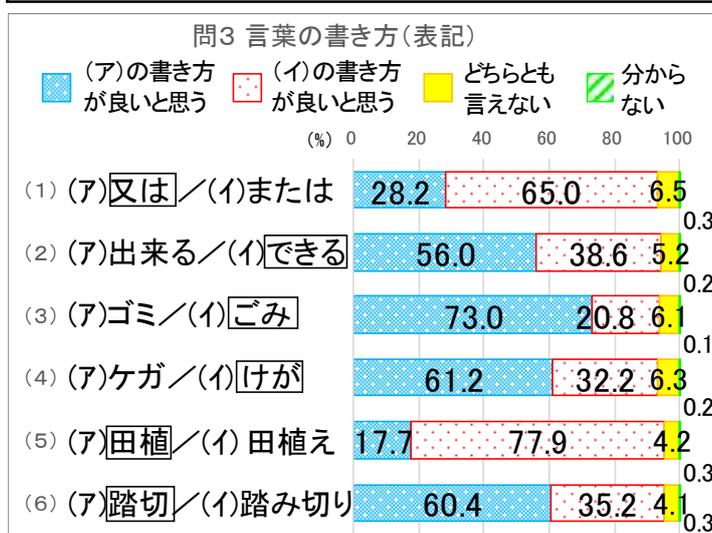
「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする」が39.5%で最も高く、以下、「学校での国語の教育をより充実させる」(35.3%)、「言葉の意味・由来や国語の伝統が受け継がれるようにする」(33.3%)、「敬語など言葉遣いの標準を決めて、その普及に努める」(30.0%)が3割台となっている。

過去の調査結果(平成11, 22年度)と比較すると、平成22年度調査から今回調査に掛けて「敬語など言葉遣いの標準を決めて、その普及に努める」が6ポイント、「外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させる」が4ポイント、それぞれ増加している。

II 表記等1 —用語など—

言葉の書き方(表記)としてどちらが良いと思うか<問3>(P.11*)

—「ゴミ」(73.0%)が、「ごみ」(20.8%)を 52 ポイント上回っている—



〔全体〕

六つの言葉について、それぞれ2通りの書き方を挙げて、どちらが良いと思うかを尋ねた。なお、グラフにおいて「公用文に用いられる表記」を四角で囲んだ。

(1) 右手又は左手 / 右手または左手

「右手又は左手」の書き方が良いと思う」が 28.2%で、「右手または左手」の書き方が良いと思う」(65.0%)を 37 ポイント下回っている。

(2) 利用が出来る / 利用ができる

「利用が出来る」の書き方が良いと思う」が 56.0%で、「利用ができる」の書き方が良いと思う」(38.6%)を 17 ポイント上回っている。

(3) ゴミを捨てる / ごみを捨てる

「ゴミを捨てる」の書き方が良いと思う」が 73.0%で、「ごみを捨てる」の書き方が良いと思う」(20.8%)を 52 ポイント上回っている。

(4) ケガを治す / けがを治す

「ケガを治す」の書き方が良いと思う」が 61.2%で、「けがを治す」の書き方が良いと思う」(32.2%)を 29 ポイント上回っている。

(5) 田植の季節 / 田植えの季節

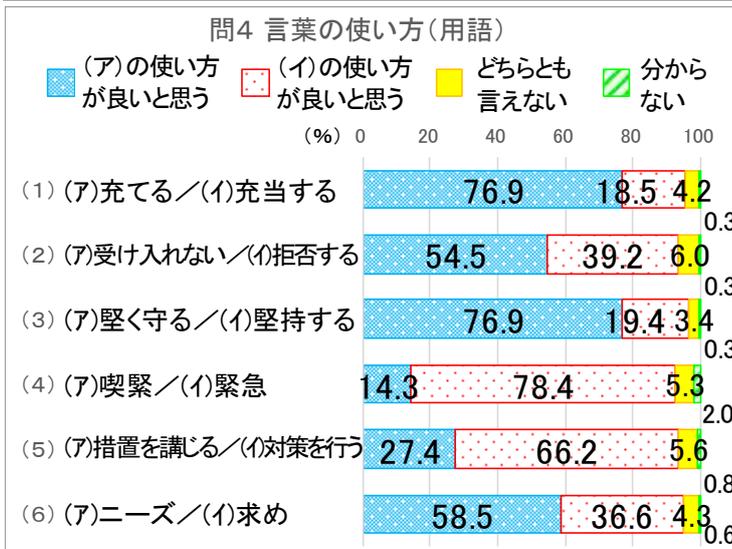
「田植の季節」の書き方が良いと思う」が 17.7%で、「田植えの季節」の書き方が良いと思う」(77.9%)を 60 ポイント下回っている。

(6) 鉄道の踏切が見える / 鉄道の踏み切りが見える

「鉄道の踏切が見える」の書き方が良いと思う」が 60.4%で、「鉄道の踏み切りが見える」の書き方が良いと思う」(35.2%)を 25 ポイント上回っている。

言葉の使い方(用語)としてどちらが良いと思うか<問4>(P.15*)

—「堅く守る」(76.9%)が、「堅持する」(19.4%)を 58 ポイント上回っている—



〔全体〕

六つの言葉について、それぞれ2通りの使い方を挙げて、どちらが良いと思うかを尋ねた。

(1) お金を生活費に充てる／お金を生活費に充当する

「お金を生活費に充てる」の使い方が良いと思うが 76.9%で、「お金を生活費に充当する」の使い方が良いと思う(18.5%)を 58 ポイント上回っている。

(2) 相手の提案を受け入れない／相手の提案を拒否する

「相手の提案を受け入れない」の使い方が良いと思うが 54.5%で、「相手の提案を拒否する」の使い方が良いと思う(39.2%)を 15 ポイント上回っている。

(3) 約束を堅く守る／約束を堅持する

「約束を堅く守る」の使い方が良いと思うが 76.9%で、「約束を堅持する」の使い方が良いと思う(19.4%)を 58 ポイント上回っている。

(4) 組織改革は喫緊の課題である／組織改革は緊急の課題である

「組織改革は喫緊の課題である」の使い方が良いと思うが 14.3%で、「組織改革は緊急の課題である」の使い方が良いと思う(78.4%)を 64 ポイント下回っている。

(5) 問題解決のための措置を講じる／問題解決のための対策を行う

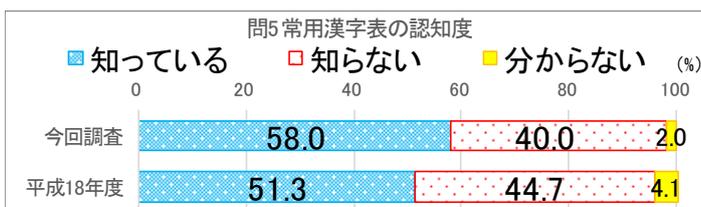
「問題解決のための措置を講じる」の使い方が良いと思うが 27.4%で、「問題解決のための対策を行う」の使い方が良いと思う(66.2%)を 39 ポイント下回っている。

(6) 多くの人のニーズに応じる／多くの人の求めに応じる

「多くの人のニーズに応じる」の使い方が良いと思うが 58.5%で、「多くの人の求めに応じる」の使い方が良いと思う(36.6%)を 22 ポイント上回っている。

常用漢字表というものがあることを知っているか<問5>(P.19*)

—「知っている」(58.0%)は、平成 18 年度調査から7ポイント増加—



〔全体・過去の調査との比較〕

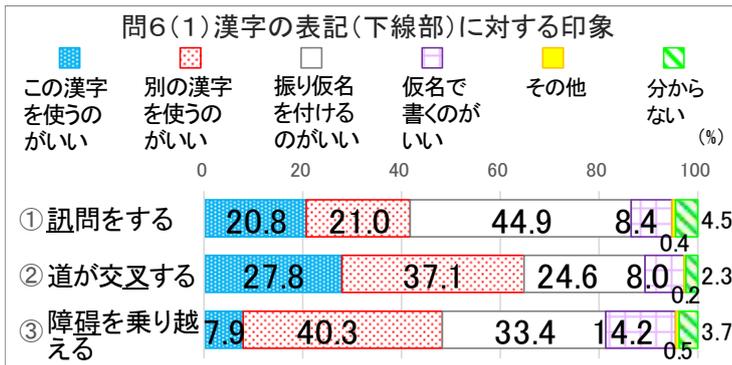
「常用漢字表」というものがあることを知っているかを尋ねた。

「知っている」が 58.0%、「知らない」が 40.0%となっている。

過去の調査結果(平成 18 年度)と比較すると、「知っている」は 7 ポイント増加しているが、「知らない」は 5 ポイント減少している。

漢字の表記について、どう感じるか<問6>(P.22*)

—「絆」について、「この漢字を使うのがいい」と9割が回答—

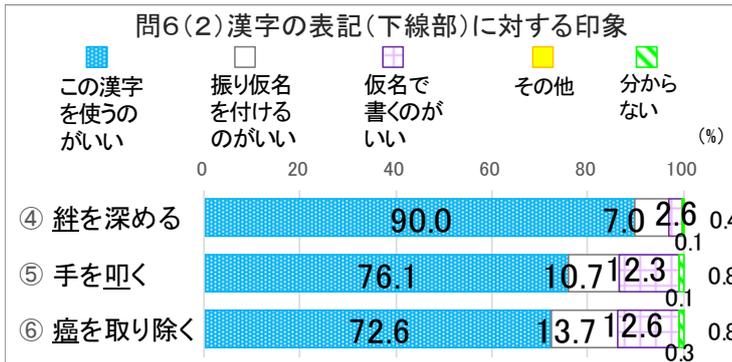


〔全体〕

六つの漢字表記を挙げて、どのように感じるかをそれぞれ尋ねた。

① 訊問をする

「振り仮名を付けるのがいい」が最も高く44.9%、以下、「別の漢字を使うのがいい」が21.0%、「この漢字を使うのがいい」が20.8%、「仮名で書くのがいい」が8.4%となっている。



② 道が交叉する

「別の漢字を使うのがいい」が最も高く37.1%、以下、「この漢字を使うのがいい」が27.8%、「振り仮名を付けるのがいい」が24.6%、「仮名で書くのがいい」が8.0%となっている。

③ 障害を乗り越える

「別の漢字を使うのがいい」が最も高く

40.3%、以下、「振り仮名を付けるのがいい」が33.4%、「仮名で書くのがいい」が14.2%、「この漢字を使うのがいい」が7.9%となっている。

④ 絆を深める

「この漢字を使うのがいい」が最も高く90.0%、以下、「振り仮名を付けるのがいい」が7.0%、「仮名で書くのがいい」が2.6%となっている。

⑤ 手を叩く

「この漢字を使うのがいい」が最も高く76.1%、以下、「仮名で書くのがいい」が12.3%、「振り仮名を付けるのがいい」が10.7%となっている。

⑥ 癌を取り除く

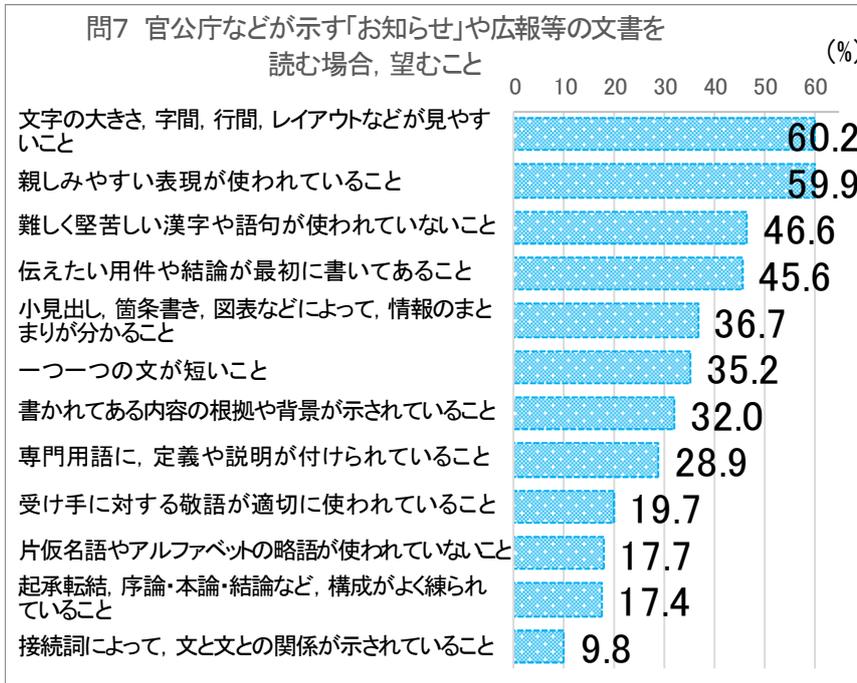
「この漢字を使うのがいい」が最も高く72.6%、以下、「振り仮名を付けるのがいい」が13.7%、「仮名で書くのがいい」が12.6%となっている。

III 表記等2 —文体・構成—

官公庁などが示す「お知らせ」や広報等の文書を読む場合、どのようなことを望むか〈問7〉(P.27*)

—「文字の大きさ、字間、行間、レイアウトなどが見やすいこと」、

「親しみやすい表現が使われていること」などが約6割—



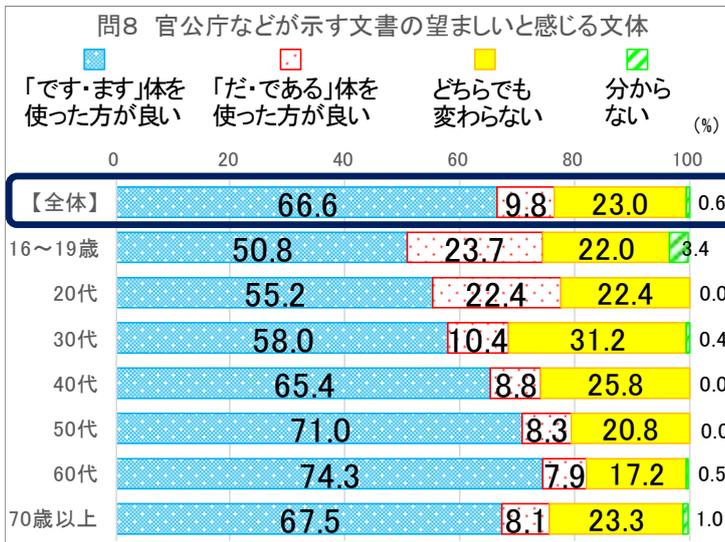
〔全体〕

官公庁などが示す「お知らせ」や広報等の文書を読む場合、どのようなことを望むかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)。

「文字の大きさ、字間、行間、レイアウトなどが見やすいこと」が60.2%で最も高く、次いで「親しみやすい表現が使われていること」が59.9%となっている。以下、「難しく堅苦しい漢字や語句が使われていないこと」(46.6%)、「伝えたい用件や結論が最初に書いてあること」(45.6%)が4割台半ばとなっている。

官公庁などが示す文書を読む場合、「です・ます」体と「だ・である」体と、どちらが良いか〈問8〉(P.30*)

—「「です・ます」体を使った方が良い」が6割台半ば—



〔全体・年齢別〕

官公庁などが示す「お知らせ」や広報等の文書を読む場合、「です・ます」体の文章と、「だ・である」体の文章と、どちらが良いと思うかを尋ねた。

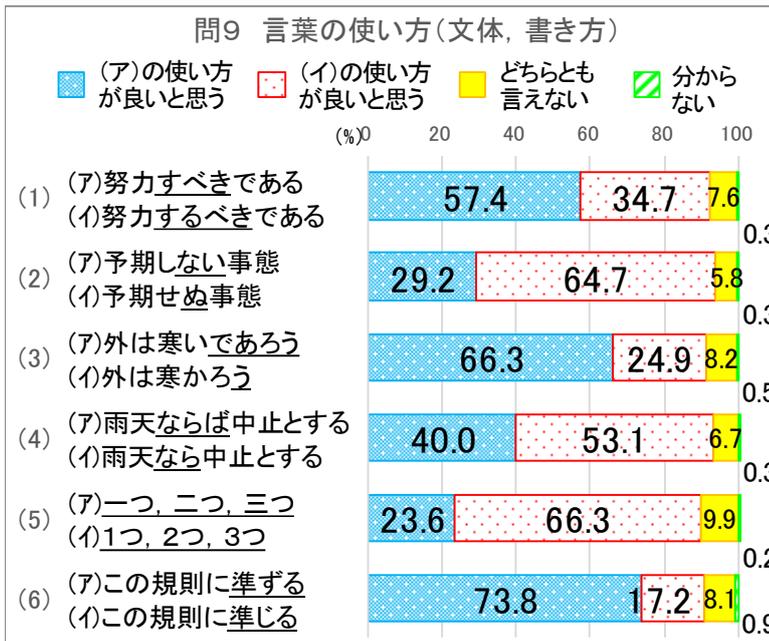
「「です・ます」体を使った方が良い」が66.6%と、「「だ・である」体を使った方が良い」(9.8%)を57ポイント上回っている。「どちらでも変わらない」は23.0%となっている。

年齢別に見ると、「「です・ます」体を使った方が良い」は、16～19歳(50.8%)から60代(74.3%)に掛けて、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。「「だ・である」体を使った方が良い」は、20代以下で他の年代より高く2

割台前半となっている。「どちらでも変わらない」は、30代で他の年代より高く31.2%となっている。

言葉の使い方(文体, 書き方)としてどちらが良いと思うか<問9>(P.32*)

—「一つ, 二つ, 三つ」(23.6%)が, 「1つ, 2つ, 3つ」(66.3%)を 43 ポイント下回っている—



〔全体〕

六つの言葉について, それぞれ2通りの使い方を挙げて, どちらが良いと思うかを尋ねた。

(1) 努力すべきである / 努力するべきである

「努力すべきである」が良いと思うが 57.4%で, 「努力するべきである」が良いと思う(34.7%)を 23 ポイント上回っている。

(2) 予期しない事態 / 予期せぬ事態

「予期しない事態」が良いと思うが 29.2%で, 「予期せぬ事態」が良いと思う(64.7%)を 36 ポイント下回っている。

(3) 外は寒いであろう / 外は寒かろう

「外は寒いであろう」が良いと思うが 66.3%で, 「外は寒かろう」が良いと思う(24.9%)を 41 ポイント上回っている。

(4) 雨天ならば中止とする / 雨天なら中止とする

「雨天ならば中止とする」が良いと思うが 40.0%で, 「雨天なら中止とする」が良いと思う(53.1%)を 13 ポイント下回っている。

(5) 一つ, 二つ, 三つ / 1つ, 2つ, 3つ

「一つ, 二つ, 三つ」が良いと思うが 23.6%で, 「1つ, 2つ, 3つ」が良いと思う(66.3%)を 43 ポイント下回っている。

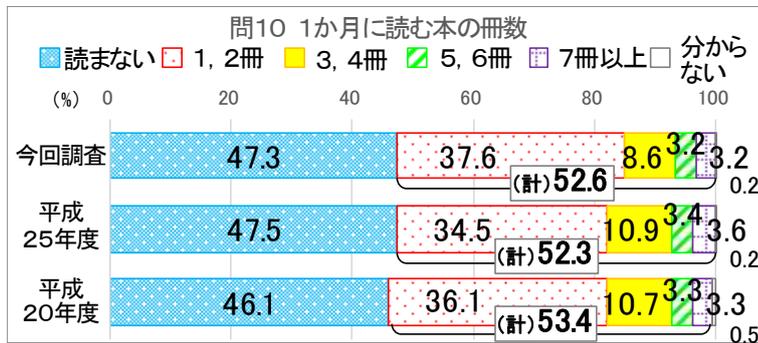
(6) この規則に準ずる / この規則に準じる

「この規則に準ずる」が良いと思うが 73.8%で, 「この規則に準じる」が良いと思う(17.2%)を 57 ポイント上回っている。

IV 読書について

1か月に大体何冊くらい本を読むか<問10>(P.36*)

— 47.3%が1か月に1冊も本を「読まない」と回答 —



〔全体・過去の調査との比較〕

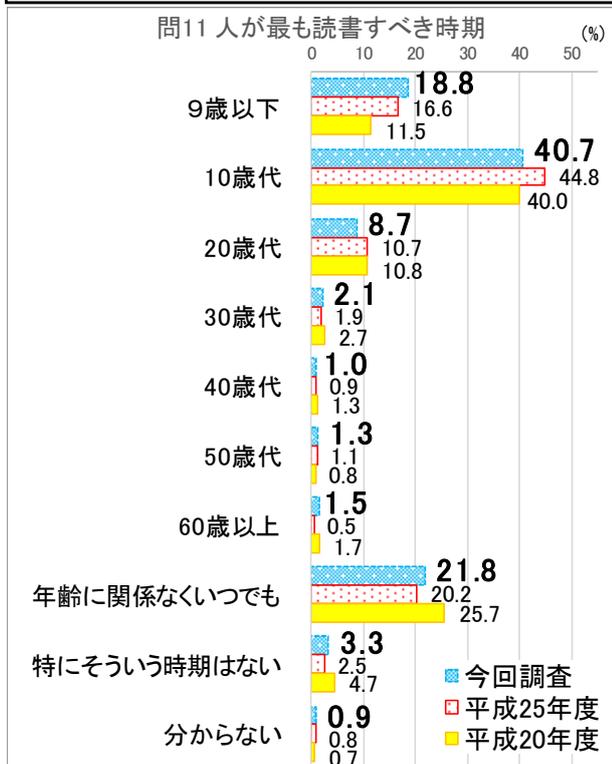
1か月に大体何冊くらい本を読むかを尋ねた。

「読まない」が47.3%、「1, 2冊」が37.6%、「3, 4冊」が8.6%、「5, 6冊」と「7冊以上」がそれぞれ3.2%となっており、1冊以上読むと答えた人の割合が52.6%である。

過去の調査結果(平成20, 25年度)と比較すると、余り変化は見られない。

人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか<問11>(P.46*)

—「10歳代」と4割強が回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

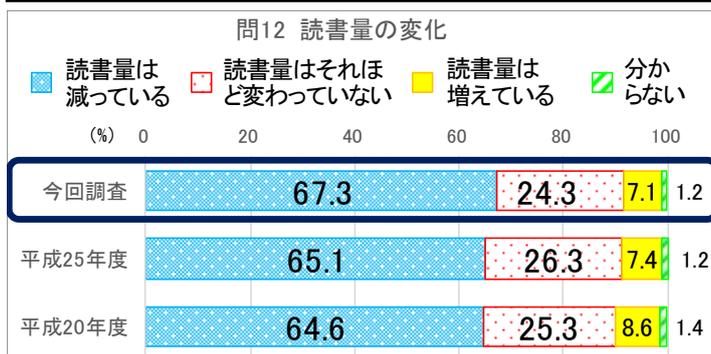
人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるかを尋ねた。

「9歳以下」が18.8%、「10歳代」が40.7%、「20歳代」が8.7%、「30歳代」が2.1%、「40歳代」が1.0%、「50歳代」が1.3%、「60歳以上」が1.5%、「年齢に関係なくいつでも」が21.8%、「特にそういう時期はない」が3.3%となっている。

過去の調査結果(平成20, 25年度)と比較すると、「9歳以下」は増加傾向にある。「10歳代」は平成20年度調査から平成25年度調査に掛けて5ポイント増加したが、平成25年度調査から今回調査に掛けて4ポイント減少している。

読書量は、以前に比べて減っているか、それとも、増えているか<問12>(P.48*)

—「読書量は減っている」と67.3%が回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

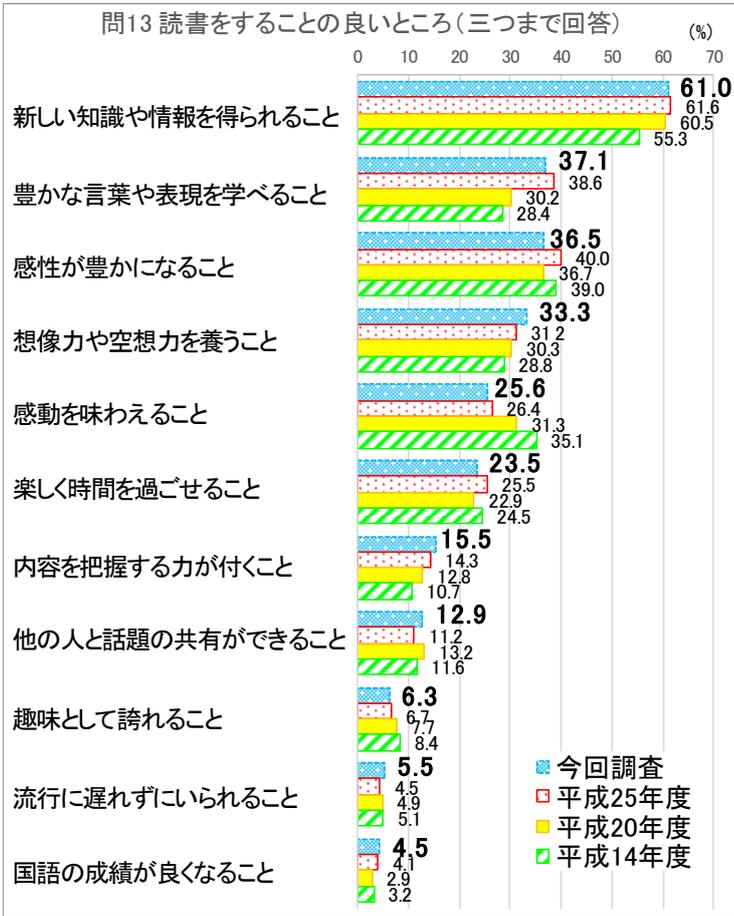
読書量は、以前に比べて減っているか、それとも、増えているかを尋ねた。

「読書量は減っている」が67.3%、「読書量はそれほど変わっていない」が24.3%、「読書量は増えている」が7.1%となっている。

過去の調査結果(平成20, 25年度)と比較すると、「読書量は減っている」は増加傾向にある。

読書をする事の良いところは何だと思うか<問 13> (P.54*)

—「新しい知識や情報を得られること」と6割強が回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

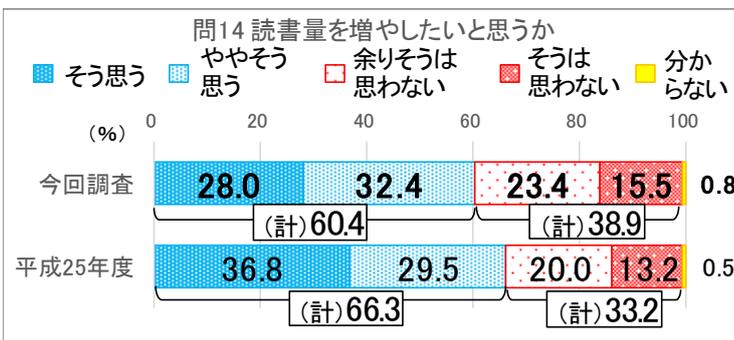
読書をする事の良いところは何だと思うかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

「新しい知識や情報を得られること」が61.0%で最も高く、以下、「豊かな言葉や表現を学べること」(37.1%)、「感性が豊かになること」(36.5%)、「想像力や空想力を養うこと」(33.3%)、「感動を味わえること」(25.6%)、「楽しく時間を過ごせること」(23.5%)、「内容を把握する力が付くこと」(15.5%)、「他の人と話題の共有ができること」(12.9%)、「趣味として誇れること」(6.3%)、「流行に遅れずにいられること」(5.5%)、「国語の成績が良くなること」(4.5%)となっている。

過去の調査結果(平成14, 20, 25年度)と比較すると、「想像力や空想力を養うこと」「内容を把握する力が付くこと」は増加傾向にある。「感性が豊かになること」は平成25年度調査から今回調査に掛けて4ポイント減少している。

自分の読書量を増やしたいと思うか<問 14> (P.57*)

—「そう思う(計)」(60.4%)は、平成25年度調査から6ポイント減少—



〔全体・過去の調査との比較〕

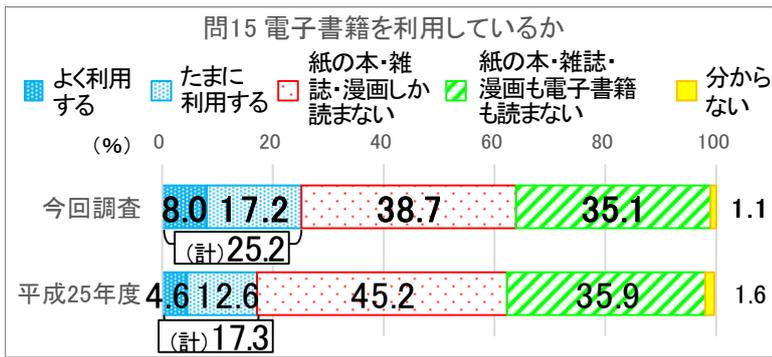
今後、自分の読書量を増やしたいと思うかを尋ねた。

「そう思う」が28.0%、「ややそう思う」が32.4%で、両方を合わせた「そう思う(計)」は60.4%となっている。一方、「そうは思わない」が15.5%、「余りそうは思わない」が23.4%で、これらを合わせた「そうは思わない(計)」は38.9%となっている。

過去の調査結果(平成25年度)と比較すると、「そう思う(計)」は6ポイント減少し、「そうは思わない(計)」は6ポイント増加している。特に「そう思う」は9ポイント減少している。

ふだん、電子書籍を利用しているか<問 15> (P.59*)

—「利用する(計)」(25.2%)は、平成 25 年度調査から8ポイント増加—



〔全体・過去の調査との比較〕

ふだん、電子書籍を利用しているかを尋ねた。

「よく利用する」が 8.0%、「たまに利用する」が 17.2%で、両方を合わせた「利用する(計)」は 25.2%となっている。一方、「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」が 38.7%、「紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない」が 35.1%となっている。

過去の調査結果(平成 25 年度)と比較

すると、「よく利用する」「たまに利用する」共に増加し、「利用する(計)」は 8 ポイント増加している。「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」は 7 ポイント減少している。

V 六つの表現の認知と使用, 慣用句等の意味・言い方

聞いたこと, 使ったことがある表現かく問 16> (P.62*)

—「知る人ぞ知る」は, 約半数が「使うことがある」と回答—

	聞いたことがない	(数字は%)		分からない
		聞いたことがあるが使うことはない	使うことがある	
(1) 古き良き時代を懐かしむ	5.1	57.9 聞いたことがある 計 94.4%	36.5	0.5
(2) 議論が行きつ戻りつしている	22.8	63.8 聞いたことがある 計 76.1%	12.3	1.1
(3) 招かれざる客	4.6	59.1 聞いたことがある 計 94.7%	35.6	0.7
(4) 知る人ぞ知る秘境	5.3	44.3 聞いたことがある 計 93.9%	49.5	0.9
(5) えも言われぬ美しさ	14.1	67.2 聞いたことがある 計 85.1%	17.8	0.8
(6) 結果は言わずもがなである	25.6	54.9 聞いたことがある 計 73.4%	18.5	1.0

〔全体〕

六つの表現を挙げて, 聞いたことがあるか, また, 使ったことがあるかをそれぞれ尋ねた。

意味としては, (1) 昔の良い, (2) 行ったり戻ったり, (3) 招かれていない, (4) 広くは知られていないが, 一部の人は知っている, (5) 何とも言えない, (6) 言うまでもない, などと辞書等にある。

(1) 古き良き時代を懐かしむ

「使うことがある」(36.5%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(57.9%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 94.4%, 「聞いたことがない」が 5.1%となっている。

(2) 議論が行きつ戻りつしている

「使うことがある」(12.3%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(63.8%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 76.1%, 「聞いたことがない」が 22.8%となっている。

(3) 招かれざる客

「使うことがある」(35.6%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(59.1%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 94.7%, 「聞いたことがない」が 4.6%となっている。

(4) 知る人ぞ知る秘境

「使うことがある」(49.5%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(44.3%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 93.9%, 「聞いたことがない」が 5.3%となっている。

(5) えも言われぬ美しさ

「使うことがある」(17.8%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(67.2%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 85.1%, 「聞いたことがない」が 14.1%となっている。

(6) 結果は言わずもがなである

「使うことがある」(18.5%)と「聞いたことはあるが使うことはない」(54.9%)を合わせた「聞いたことがある(計)」が 73.4%, 「聞いたことがない」が 25.6%となっている。

どちらの意味だと思うか<問 17> (P.66*)

—「慥然」、「御の字」、「砂をかむよう」、いずれも本来の意味とは違ふとされる方が多数—

(数字は%)

(1) 慥然(ぶぜん) (例文: 慥然として立ち去った)	平成 30年度	19年度	15年度
(ア) : 失望してぼんやりとしている様子	28.1	17.1	16.1
(イ) : 腹を立てている様子	56.7	70.8	69.4
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	6.3	2.0	2.7
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味 分からない	1.5	0.7	3.4
	7.4	9.5	8.3
(2) 御の字 (例文: 70点取れば御の字だ。)	平成 30年度	20年度	
(ア) : 一応, 納得できる	49.9	51.4	
(イ) : 大いに有り難い	36.6	38.5	
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	6.0	3.5	
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味 分からない	1.2	1.1	
	6.3	5.6	
(3) 砂をかむよう (例文: 砂をかむような思いがした。)	平成 30年度		
(ア) : 悔しくてたまらない様子	56.9		
(イ) : 無味乾燥でつまらない様子	32.1		
(ウ) : (ア)と(イ)の両方	3.6		
(エ) : (ア), (イ)とは, 全く別の意味 分からない	1.1		
	6.2		

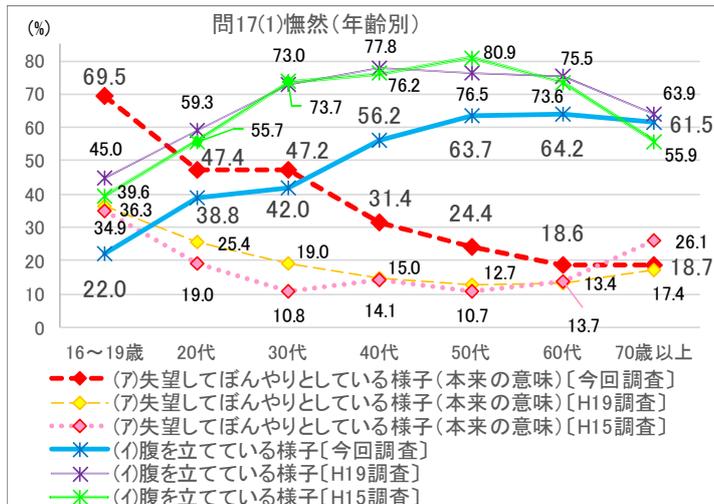
〔全体・過去の調査との比較〕

表に挙げた三つの慣用句等を挙げて、どちらの意味だと思うかを尋ねた。なお、辞書等で**主に本来の意味とされるものをゴシック体**で記した。

今回尋ねた慣用句等の「(1)慥然」、「(2)御の字」、「(3)砂をかむよう」いずれも、本来の意味とは違ふとされる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果((1)は平成15,19年度,(2)は20年度)と比較すると、本来の意味とされる方を選択した割合が、「(1)慥然」では増加傾向にある。

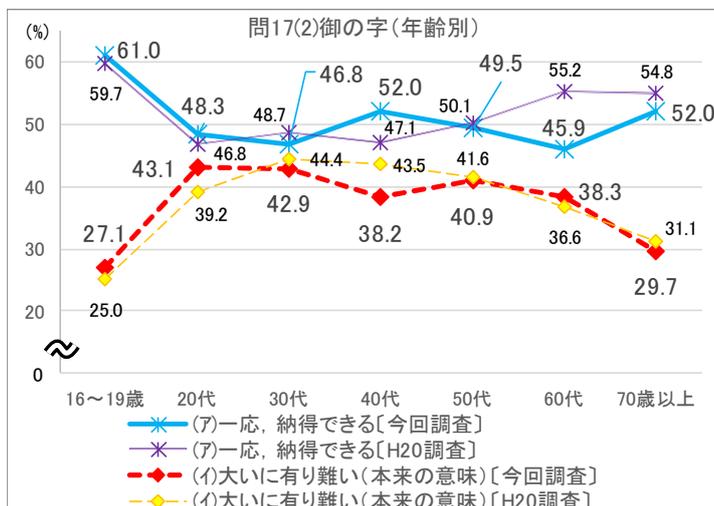
〔年齢別・過去の調査との比較〕※本来の意味とされるものは点線(---)で表示した。



(1) 慥然

年齢別に見ると、「腹を立てている様子」は、50代以上で他の年代より高く6割台前半となっている。本来の意味とされる「失望してぼんやりとしている様子」は、20~30代で4割台後半、16~19歳で69.5%となり、30代以下では「失望してぼんやりとしている様子」が「腹を立てている様子」を上回っている。

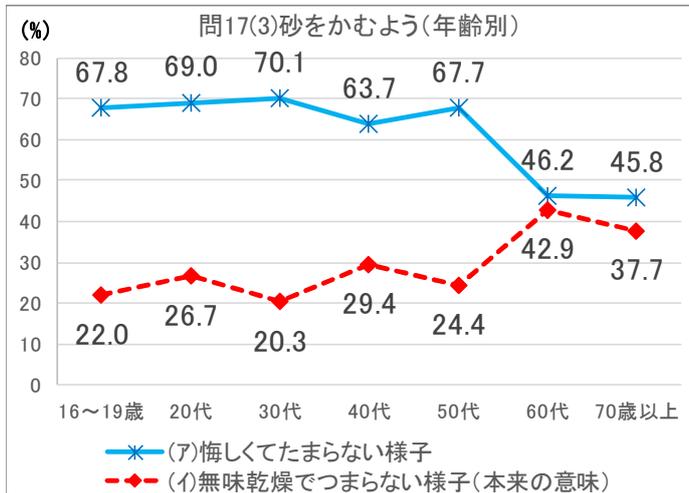
過去の調査結果(平成15,19年度)と比較すると、「失望してぼんやりとしている様子」は平成19年度調査から今回調査に掛けて、60代以下において5~33ポイント増加している。



(2) 御の字

年齢別に見ると、「一応、納得できる」は、全ての年代で本来の意味とされる「大いに有り難い」を上回り、16~19歳で他の年代より高く61.0%となっている。「大いに有り難い」は、20~30代、50代で他の年代より高く4割台前半となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「一応、納得できる」は40代では5ポイント増加しているが、60代では9ポイント減少している。



(3) 砂をかむよう

年齢別に見ると、「悔しくてたまらない様子」は、60代以上で4割台後半となっているが、50代以下で6~7割台となっている。本来の意味とされる「無味乾燥でつまらない様子」は、60代以上で他の年代より高く3割台後半から4割台前半となっている。

どちらの言い方を使うか<問18>(P.70*)

—本来の言い方とされていない「天地天命に誓って」を使うと、半数以上が回答—

(数字は%)

質問	平成30年度	18年度	19年度
(1)「自分の言うことに、うそ偽りが無いことを固く約束するさま」を			
(ア):「(a)天地天命に誓って」を使う	53.7		
(イ):「(b)天地神明に誓って」を使う	32.1		
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	2.1		
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	9.7		
分からない	2.4		
(2)「前言に反したことを、すぐに言ったり、行ったりするさま」を			
(ア):「(a)舌の根の乾かぬうちに」を使う	60.4	53.2	
(イ):「(b)舌の先の乾かぬうちに」を使う	24.4	28.1	
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	1.6	2.2	
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	10.8	12.0	
分からない	2.9	4.5	
(3)「論理を組み立てて議論を展開すること」を			
(ア):「(a)論陣を張る」を使う	29.5		25.3
(イ):「(b)論戦を張る」を使う	44.0	35.0	
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	2.4	1.7	
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	17.4	24.9	
分からない	6.7	13.1	

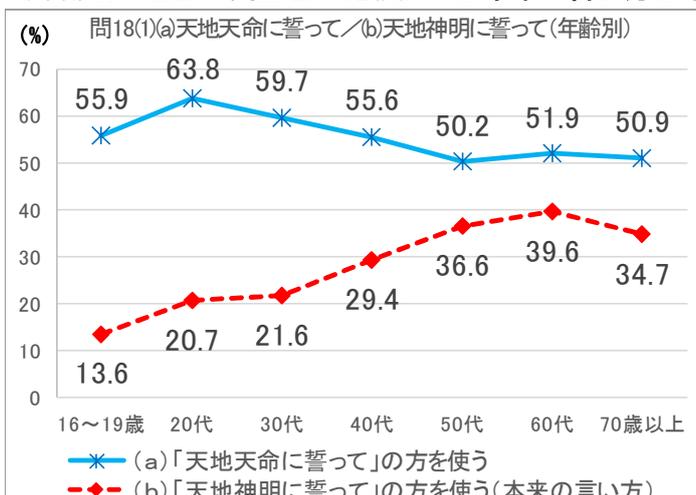
〔全体・過去の調査との比較〕

表に挙げた三つの慣用句等について、どちらの言い方を使うかを尋ねた。なお、辞書等で主に本来の言い方とされるものをゴシック体で記した。

今回尋ねた三つの慣用句等のうち、本来の言い方とされる(1)「(b)天地神明に誓って」、(3)「(a)論陣を張る」を使う割合は、それぞれ、本来の言い方とされていない(1)「(a)天地天命に誓って」、(3)「(b)論戦を張る」を大きく下回っている。

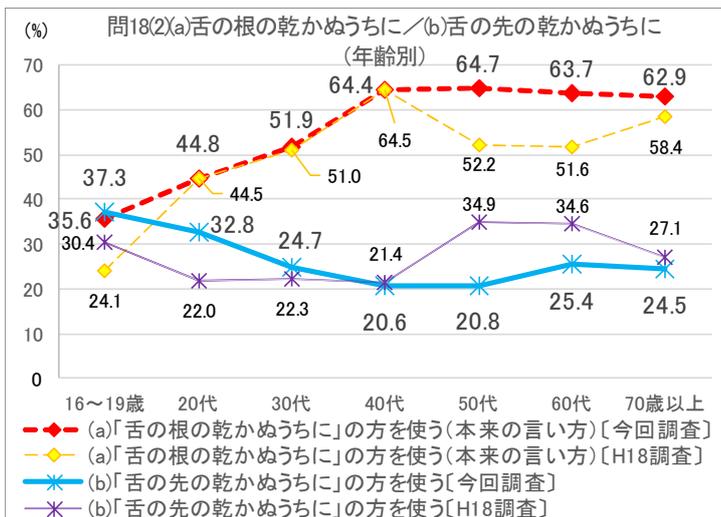
過去の調査結果((2)は平成18年度、(3)は19年度)と比較すると、本来の言い方とされている方を選択している割合が、(2)「舌の根の乾かぬうちに」では7ポイント、(3)「論陣を張る」では4ポイントそれぞれ増加している。「(a)と(b)のどちらも使わない」は(3)「(a)論陣を張る、(b)論戦を張る」で8ポイント減少している。

〔年齢別・過去の調査との比較〕 ※本来の言い方とされるものは点線(---)で表示した。



(1) 天地天命に誓って/天地神明に誓って

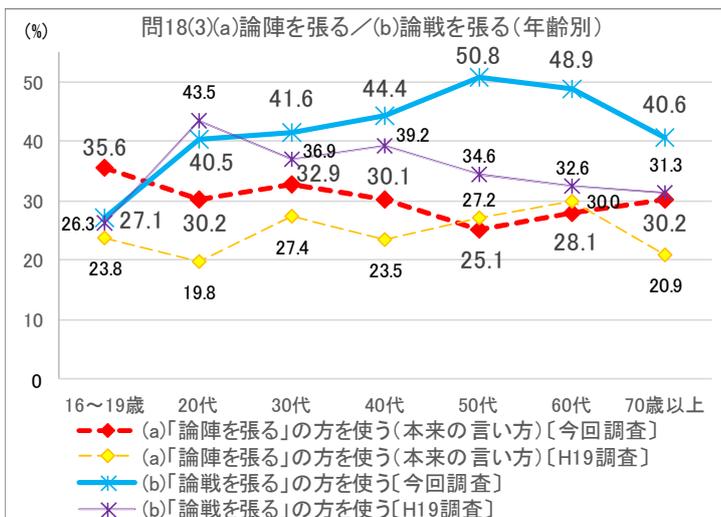
年齢別に見ると、「天地天命に誓って」は、全ての年代で本来の言い方とされる「天地神明に誓って」の割合を上回り、20代で最も高く63.8%、次いで30代で59.7%となっている。「天地神明に誓って」は、60代で他の年代より高く39.6%となっている。



(2) 舌の根の乾かぬうちに／舌の先の乾かぬうちに

年齢別に見ると、「舌の先の乾かぬうちに」は、20代以下で他の年代より高く3割台となっている。本来の言い方とされる「舌の根が乾かぬうちに」は、40代以上で他の年代より高く6割台前半となっている。

過去の調査結果(平成18年度)と比較すると、「舌の先の乾かぬうちに」は、20代以下で7～11ポイント増加している。「舌の根が乾かぬうちに」は、16～19歳で13ポイント、50代で13ポイント、60代で12ポイント、それぞれ増加している。



(3) 論陣を張る／論戦を張る

年齢別に見ると、「論戦を張る」は、20代以上の全ての年代で本来の言い方とされる「論陣を張る」の割合を上回り、50～60代で他の年代より高く約5割となっている。

過去の調査結果(平成19年度)と比較すると、「論戦を張る」は、30代以上で5～16ポイント増加している。「論陣を張る」は、50～60代を除く全ての年代で6～12ポイント増加している。